

## エネルギー市場の構造変化とリスクの顕在化

大橋 和彦

(証券アナリストジャーナル編集委員会委員)

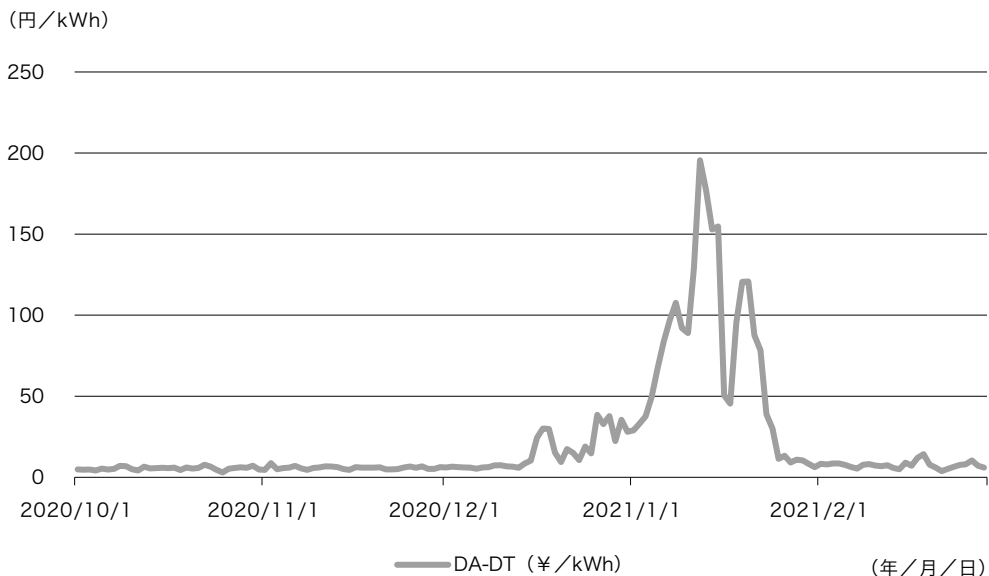
### 1. 電力・エネルギー価格の高騰

ちょうど1年前の2021年1月、日本の卸電力市場では前例のない高値が続いていた(図表1)。例年であればインデックス・ベースで1kWh当たり8円程度であるJEPX(Japan Electric Power Exchange:日本卸電力取引所)の電力スポット価格が、その前年の2020年12月末から急上昇を始めて2021年1月12日に1kWh当たり195.56円の最高値をつけ、1月末になってやっと例年並み

の価格に戻った。スパイク(spike)と呼ばれるごく短期の大幅な価格上昇と下落の発生が電力価格の特徴だが、価格の急上昇が1カ月もの長期にわたって継続するのは珍しい。

立場によって様々な意見はあるが、経済産業省の会議資料(経済産業省資源エネルギー庁[2021])によれば、この価格高騰の原因は、(1)全国的な気温低下による電力需要の大幅な増加、(2)東アジアでの需要増やパナマ運河通航遅延等に

図表1 JEPX前日市場スポット価格インデックス



(出所) JEPX公表データから筆者作成